

尚御發議ナクハ本案ハ可定ト認ム

○

議長(東久世) 次ニ明治二十八年勅令第百十八

號中改正ノ件第一讀會ヲ開ク朗讀ハ省略ス

報告負(都筑) 本案ハ文字至テ簡單ナレトモ込

入リタル難問題ナリ從來記章ノ佩用ハ赤十

字社記章ニ限リテ許可シアリタルモ今回大日

本帝國水難救濟會帝國軍人援護會愛國婦人

會ノ三協會ニモ記章佩用ノ特典ヲ認可スル

コトトスルノ案ナリ之ハ賛成ニモ理由アリ

反對ニモ理由アリ憲法ニ於テハ苟クモ記章

ノ類ハ君主ヨリ出ルニアラサレハ公然佩用

ヲ許ササルノ原則ヲ採リ居ルカ故ニ若シ私

設協會ノ記章ヲ公然佩用スルコトヲ許サハ

幾分カ

天皇ノ大權ヲ協會ニ委任シタルカ如キ觀テ

生シ從テ種々ノ弊害モ生スルナリ甚シキニ

至リテハ日清戰爭ノ後町村ニ於テ從軍シタ

ル軍人ニ記章ヲ贈リタルカ如キコトモアリ

タル程ナリ蓋シ許多ノ場合ニ於テ協會等カ

或ル人ニ記章ヲ贈リテ表彰セントスル目的ハ褒章條例等ニ依リテ達スルコトヲ得ヘク此等條例ニ依リテ達シ得ラレサルカ如キ目的ハ寧ロ之ヲ達セシメサルカ至當ナルヤモ知ル可ラス例ハ赤十字社ノ如キハ他ノ會トモ違ヒ萬國協同ノモノナルモ其會負カ褒章條例ニ依リテ褒章ヲ受クル以外ニ其社ノ記章ヲ公然佩用スルト曰フカ如キハ既ニ理屈上不可ナルヤモ知ル可ラス且ツ赤十字社ノ如キ比較的完備セル社テサヘモ其社負ノ

出金ノ多寡ニ依リ待遇ヲ異ニスルカ如キ弊習アルカ如シ故ニ其ノ他ノモノニ至テハ更ニ慎ムヘキモノト思ハル然シ赤十字社ニハ既ニ記章ノ佩用ヲ許シ又現ニ陸海軍ニ於テモ射的ノ優等者ニ賞牌ヲ與ヘ又宮内省ニ於テモ馬術ノ優等者ニ賞牌ヲ與ヘテ公然佩用セシメ居ル例モアリテ既ニ例外ノアルコトナレハ多少不規則ノコトアルモ千古未見ナル稀ナル時局ニ際シ忍テ其目的ヲ達セシムル方可ナラント考ヘ餘リ好マシカラズ事ナ

レトモ記章佩用ヲ許サレテ然ル可キカト考  
フ而シテ時局ニ際シ特ニ獎勵ノ要ヲ見ルハ  
帝國軍人援護會ナリ而カモ之ニ記章佩用ヲ  
許サハ愛國婦人會ニモ之ヲ許ササル可ラス  
又此ノニツノ會ニ此特典ヲ附與スル以上ハ  
水難救濟會モ事業ハ平時ノモノナリト雖從  
采屢々記章佩用ノ特典ヲ得タシトノ希望ア  
リタル次第ニモ有之旁權衡上此特典ヲ與ヘ  
サル可ラス尤愛國婦人會ニ至リテハ未法人  
トモ為リ居ラス其基礎ハ充分ナルヤノ點ニ

ツキ如何ト思ハルルモ會自身ニ於テモ注意  
スヘク當局者ニ於テモ監督ヲ怠ラサルヘク  
其ノ目的全ク軍人援護會ト同一ナルヲ以テ  
矢張同一ノ取扱ニセラレ可然ト思フ

二十六番(細川) 本官ハ本案ヲ以テ到底不穩當

ヲ免レサルモノト思フ唯今書記官長ノ陳述  
アリ又審査報告ニモ要領ヲ得タルカ小官モ  
同意見ナルカ故ニ本案ハ如何ニモ不穩當ト  
思フ審査報告ノ末段ニ於テハ非常ノ際ナレ  
ハ其非常ノ際ニ處スル非常ノ便法トシテ記

章ノ佩用ノ特典ヲ許可セラレ可然トアリ此  
點ノミハ本官ノ意見全然之ト異ナリ我憲法  
ニ於テモ第十五條ニ天皇ハ爵位勲章及其他ノ  
榮典ヲ授與ストアリ而シテ勲章記章ニ類似  
ノ標章ハ公然佩用スルコトヲ得サルハ勅令  
ノ規定ニヨリ明瞭ナルニモ拘ラス實際其ノ  
主義ヲ何處マテモ押通ス譯ニ行カサルカ如  
シ然シ其ノ押通ササルハ善キカ悪シキカ如何  
ト問ハハ矢張悪シト曰ハサル可ラス學校ノメ  
タルノ如キハ或ハ私ニ類似セルモノヲ造ル

コトアルモ之ハ強テ差支ナカルヘシ然ルニ  
今大權ヨリ發動シタル記章ハ左ル譯ニハ行  
カス之ニ類似ノ記章ヲ公然佩用スルコトヲ  
許スハ甚穩カナラヌ事ト思フ即憲法ニ規定  
シアル事柄ニ直接違反スルニハ非ルヘキモ  
尚勲章記章ノ効力ヲ幾分カ弱ムルコトトナ  
ルヘシ記章ノ如キモノヲ大權ノ發動ニ依ル  
ニ非スシテ佩用スルコトヲ得ルト言ハハ大  
權ノ發動ニ依リテ得タル記章ハ至テ弱キモ  
ノトナリ其ノ結果トシテ大權ニ損傷ヲ来ス

是レ實ニ穩カナラサル次第ニ非スヤ非常ノ  
際ニハ非常ノ便法ヲ用ヒサル可ラストハ  
應御尤ノ如キモ勲章ニ似タル標章ヲ佩用セ  
シタルコトカ非常ノ便法ナリヤ否ヤハ見解  
ヲ異ニスル所ナリ今日軍人等ニモ勲章ヲ佩  
用スル人多シ今回ノ戦争ノ後ハ從來ヨリモ  
更ニ一層増加スルコトナラン而シテ此等ノ  
勲章ハ戦功ニ依リ天皇陛下ヨリ授與セラレ  
タルト云フ點ヨリ益有難ク貴キモノト為ル  
ヘシ然ルニ私設協會ヨリ何人ニテモ出金シ

タル者ニ之ニ類シタル記章ヲ與ヘ公然佩用  
スルコトヲ得ル次第トナラハ折角國ノ為メ  
君ノ為メ身命ヲ賭シテ軍功ヲ立テ授與セラ  
レタル勲章ハ至テ輕キモノト為ルヘシ故ニ  
本案ノ如キハ非常ノ便法トハ為ラスシテ非  
常ノ不便法ト為ルト思フ是レ本官ノ賛成セ  
サル理由ナリ其ノ筋ニテモ思フニ今日公益  
ノ為メニ設立シタル種々ノ協會ヲ充分調査  
セラレタルコトナルヘク其數至テ多カラシ  
然ルニ其ノ全部ニ此ノ特典ヲ附與スルニ非

スシテ單ニ三個ノ會ノミヲ取り出シタルハ  
何ソヤ成程此ノ特典ヲ有スル會ヲ少クスル  
ノ趣意ナルヘキモ是非此ノ三會ト云フ確ナ  
ル理由アラハイサ知ラス此ノ三ツニ類似ノ  
モノハ幾許ト無ク有リ又今將ニ成立セント  
シツ、アルヤニ見受ケ居レリ本官ノ知ル所  
ノミニテモ既ニ尚兵義會及徵兵慰勞會ト  
アリ種々様々ノ名稱ヲ附シ居ルモ其ノ實際  
ハ同一ノ事ヲ為シ居ルモノニシテ即軍人援  
護會、愛國婦人會ト似タリ勿論或ハ會員少數

ニシテ金額モ寡カルヘシト雖其ノ趣旨ニ至  
リテハ全ク同一ナリ果シテ然ラハ軍人援護  
會、愛國婦人會ニ許スナラハ實際上之ト少シ  
モ違ハサル會ニ許ササルハ其ノ答辯ノ辭ニ  
窮スヘシ強テ曰ハハ金額少シ人数少シト答  
フルノ外ナケシ是レ果シテ我々ノ常識ニ許  
ヘテ答辯ノ辭トシテ用ヒ得ヘキモノナルヤ  
否ヤ又答辯ハ兎モ角モトシテ世上ノ議論ヲ  
如何センヤ單ニ帝國軍人援護會及愛國婦人  
會ノミニ特典ヲ許與シテ之ト少シモ違ハサ

ル他ノ會ニハ許與セス實ニ怪シカラ又所為  
ナリト攻撃セラルヘシ如何ニモ此ノ案ハ其  
穩當ナラサルモノト信ス既ニ明治二十八年  
勅令第百十八號ニ於テモ勳章記章類似ノモ  
ノノ濫用ヲ禁シ日本赤十字社ノミハ他ノ會  
トハ大ニ異リタル特殊ノ社ナルヲ以テ特ニ  
其ノ記章ノ佩用ヲ許シタル次第ニシテ今日  
ニ至リテ軍人授護會等ニ此特典ヲ許與スル  
トキハ本院カ當初此勅令ヲ賛成シタル趣旨  
ニモ及スルコトトナルヘシ旁以テ本案ハ暫

ク御見合ヲ願ヒタシ何卒内閣ニ於テモ再應  
ノ審議ヲ盡サレシコトヲ望ム若シ余ノ意見  
ニシテ幸ニ通過スルコトアラハ其ノ奉答文  
案ハ起草シ置キタルヲ以テ書記官ニ依頼シ  
テ之ヲ朗讀セシメン或ハ恐ル大勢既ニ原案  
ノ賛成ニ定マリテ回ス可ラサルニ非ルヤ又  
然レトモ事頗ル重大ノ關係アルヲ以テ黙シ  
テ止ムニ忍ヒス茲ニ各位ノ清聽ヲ汚シタル  
次第ナリ何卒各位ニ於テモ深思熟考卑見ヲ  
賛成セラレシコトヲ乞フ

奉答文案(河村書記官朗讀)

臣等明治二十八年勅令第百十八號中改正ノ件  
諮詢ノ命ヲ恪ニ本月十八日ヲ以テ審議ヲ盡シ  
タルニ勲章及記章ハ國家ニ功勞アル者ヲ賞シ  
效績ヲ旌表スル等ノ具ニシテ至重ノ榮典ナレ  
ハ之ニ類似スル徽章ノ佩用ヲ禁止セラレタル  
ハ至當ノ措置ト謂ハサルヲ得ス今ニ及ンテ大  
日本水難救濟會外ニ會ニ對シ其禁ヲ弛ムルノ  
必要ヲ認ムヘキ理由ナキヲ以テ本件ハ更ニ内  
閣ニ於テ審議セラルヘキモノト議決セリ乃チ

原案ヲ添附シ謹テ上奏ニ更ニ  
聖明ノ採擇ヲ仰ク

説明負(一ホ) 唯今細川顧問官ヨリ段々御意見

アリテ如何ニモ御尤ノ御考ナリト思フ然シ

政府ノ本案ヲ提出シタルニ於テモ理由アル

ニツキ一應其ノ理由ヲ述ヘテ各位ノ御賛成

ヲ乞フ元ト勲章記章ノ佩用ヲ許スコトハ大

權ノ發動ナリ既ニ大權トスレハ其ノ行使ヲ

私人ニ借ス可ラサルコトハ論ヲ俟タサルナ

リ現ニ赤十字社ノ記章佩用ノ特典モ大權ノ



行使ヲ借セシニ非ルハ明ナリサレハ勲章  
章ニ類似ノ標章カ餘リ多数トナレハ如何  
モ紛ハシク成リテ之カ為ニ勲章記章ノ光輝  
ヲ減スルコトトナルヲ以テ如何ナル記章モ  
全然佩用ヲ許スコトト為スハ兎モ角或ル少  
數ノモノヲ限リテ特ニ之ヲ許ストキハ敢テ  
其ノ患モ無カルヘシ畢竟赤十字社ニ記章佩  
用ノ特典ヲ許可シタルモ獎勵ノ為ナリ獎勵  
スヘキ事業ハ固ヨリ数多キモ今日帝國人民  
カ軍人ノ後援ヲ為スコトハ實ニ非常ノ必要

ナリ今日ノ時局ニ於テ之ヲ赤十字社ノ事業  
ニ比スルニ其ノ獎勵ノ必要ハ決シテ之ニ劣  
ラス明治二十八年勅令第百十八號發布ノ際  
ニハ赤十字社ノ外ニハ之レ無カリシモ今日  
ニ於テハ軍人援護會等ハ決シテ赤十字社ニ  
劣ラサルモノナリ勿論此ノ種ノ會ハ他ニ類  
ハアルモ其ノ區域一地方等ニ限リテ此會ノ  
如ク廣ク帝國一般ニ互リタルモノ無シ之ニ  
對スルモノハ愛國婦人會ナリ此ノ二會ハ最  
モ軍人ノ後援ニ有効ナル會ナリ之ヲ特別ニ

取扱ヒ記章佩用ノ特典ヲ與フルハ敢テ不可  
ナカルヘシト思フ水難救濟會ハ先刻書記官  
長ヨリ御話アリシ如ク從來屢記章佩用ノ希  
望アリタルノミナラス其ノ會ノ組織目的モ  
重ク且ツ水難救濟會ハ他國ニモ有リテ露國  
ノ如キハ現ニ記章佩用ヲ許可シ居ル次第ナ  
リサレハ此際此等ノ三會ニ記章佩用ヲ許ス  
コトハ今日ノ時局ニ照シテ非常ニ獎勵ヲ要  
スルモノニ許スコトナレハ之カ為ニ弊害ヲ  
生シテ大權ヲ毀クルカ如キコト無カルヘシ

然ニ念ニハ念ヲ入レサル可ラサルヲ以テ本  
令發布ノ上ハ勲章ニ似タル記章ハ斷シテ許  
ササル内規ヲ立ツル積ナリ又戰爭後ニハ多  
數ノ軍人ニ勲章ヲ賜ハルニ依リ此際此カル  
特典ヲ許スハ却テ甚不可ナリトノ御説アリ  
シモ今申上ケシ通勲章類似ノモノハ許ササ  
ルニ付其ノ患ハ無カルヘシト思フ尚書記官  
長ヨリ愛國婦人會ハ法人ナラサルニツキテ  
ノ御掛念アリシモ成程現在ハ法人ニ非ス然  
シ勅令ニテ此ノ特典ヲ認ムル以上ハ之ヲ法

人ト為サシムル考ナリ

議長(東久世) 二十六番ヨリ御説アリタルカ

大體ニツキ御意見アル方ハ御述アリタシ

二十一番(福田) 本官ハ此ノ案ニツキ否決廢案

ノ意見ヲ抱キ居ルモノナルカ唯今細川顧問

官ヨリ縷々廢案ノ御意見アリ之ニ對シテ政

府委員ノ辯明アリタレトモ之ヲ聽キテ本官

ハ尚更不都合ト思フ細川顧問官ノ意見ノ通

リトナラハ即本官ノ思フ所ト合スルニツキ

至極賛成ナリ

議長(東久世) 然ラハ二十六番ノ説ニツキテ採

決ス賛成ノ諸君ハ起立ヲ乞フ

(全會一致)

尚上奏案ハ先刻ノ案ニテ可ナルヤ今一應明

讀セシム

(河村書記官朗讀)

議長(東久世) 御異議ナクハ此ノ上奏案ヲ以テ

奉答スルコトト為スヘシ

(午前十一時二十五分散會)

副議長伯爵東久世通禧

書記官長

書記官

河村金五郎

柴田駒三郎